

Total RNA 抽出のための組織破碎

A. 準備

- gentleMACS Dissociator
- gentleMACS M Tube ストレイナー付き: 50本 130-094-392 または
ストレイナーなし: 25本入り 130-093-236、50本入り 130-093-458
- Total RNA 抽出用製品 (お手持ちのものをご用意ください)
- オプション: ART 1000 REACH ピペットチップ (Molecular BioProducts, Inc.) またはそれと同等のサイズのチップなら、M Tube のキャップ中央にあるシリコン部分にピペットを挿しこむことができ、危険なサンプルでも閉鎖された状態で中身を回収できます。

B. Total RNA 抽出のための組織破碎

- このプロトコルにより、肝臓、肺、脳、脾臓、腎臓、筋肉、視床下部、腸、膀胱、心臓、皮膚などからRNAを単離できることが確認されています。(骨など硬いものは破碎できません)
- M Tube はフェノールやグアニジンイソチオシアネートを含む試薬に耐性です。
- サンプル量は 350 μ L ~ 10 mL の lysis buffer にしてください。
- RNA は分解されやすいので、すばやくサンプルを Lysis / Binding buffer で溶解することをお勧めします。
- 凍結サンプルの場合、溶解する前にサンプルを融解するのはお避けください。

サンプルにあわせてプログラムを選ぶ。
フレッシュな組織: gentleMACS program RNA_01
凍結組織: gentleMACS program RNA_02



Lysis バッファーを室温にしておく。



お手持ちのRNA 抽出キットのプロトコルに従い、M Tube に適量のlysis バッファーを加える。



M Tube に組織片を入れ、しっかりふたを閉める。



M Tube を gentleMACS Dissociator にセットする。
サンプルが rotor / stator にのっていることを確認する。



プログラムをスタートさせる。



プログラム終了後、チューブからサンプルを取り出し、各キットのプロトコルに従って引き続きRNAの抽出を行う。

* チューブの壁にサンプルがつかないように直接 lysis buffer に入れてください。

オプション: サンプル量が 3 mL 以下の場合やサンプルが泡立ったときは M Tube を 2000g 1min で遠心し、サンプルをチューブの底に集める。

NOTE: ART 1000 REACH ピペットチップまたはそれと同等のものなら、M Tube のキャップ中央にあるシリコン部分にピペットを挿しこむことができ、閉鎖された状態で中身を回収できます。